



第130号
野毛山幼稚園
横浜市西区老松町30
TEL.045-231-0150

飼い葉桶に眠るイエス 光・命・愛

野毛山キリストの教会牧師
野毛山幼稚園園長 奈良昌人

アドベント一回目の保護者の皆さんとの
礼拝、その後のクリスマス親子工作はとて
も素晴らしい時間でした。クリスマスを中心
待ちにしながら幼稚園でお友だちの家族も
一緒に工作しながら過ごす時間はかけがえ
のない親子での工作の経験として心に残つ
たのではないのでしょうか。そして、それぞ
れのご家庭に世界に一つだけの素晴らしい
クリスマスツリーができ上がりました。材
料をご準備くださり、工作を見守ってくだ
さった鯨丸邦夫先生に改めて感謝いたしま
す。12年間、ありがとうございます。

さて、その前、感謝祭礼拝が恵みのうち
に行われた次の月曜日、年少すずらん組の
お友だちと一緒に礼拝をしました。本當
にみんな大きくなったと感じました。入園
から8か月、幼稚園での生活がしつかりと
身についてきたようで、とてもたのしく、
嬉しい気持ちになりました。礼拝の後で、
「クリスマスって知ってる？」と聞くと、
「サンタさん」「ケーキ」「プレゼント」「プ
ラレール」「いっぱいうれしいことがあるの」
という答えが返ってきました。確かにそ
の通り、クリスマスはサンタもケーキもプ
レゼントも、みんなうれしい、楽しいこと
だらけです。そして、その楽しいことやう
れしいことがアドベントの日々の中で変わ
っていきます。クリスマスが、サンタクロ
ースからプレゼントをもらう楽しくうれし
い日から、クリスマスは神さまがいちばん
大きなプレゼントであるイエスキリストを私た
ちにくださった、とてもうれしい日である
と解ってきます。しかし、世の中にはとて
もうれしいクリスマスとは言えない状況に
ある人たちがいるのです。
こんなクリスマスがありました。
1942年12月24日、牧師でもあるドイ
ツ軍の士官医師クルト・ロイバーはロシア
のスターリングラードの戦いで、ソ連軍の
猛攻撃に遭い、壊滅的な状況で零下40度の
塹壕の中に閉じ込められ、「暗闇」と「死」
と「憎しみ」に取り囲まれながらも「光」
「命」「愛」という言葉を地図の裏に木炭で
描いた聖母子の横に記しました。ロイバー
は、愛する子どもたちへの手紙の中に、「こ
のアドナナの絵を心の支えとして欲しい。
苦しい時にぐらつかないように、心の中に
支えが必要です。それを父さんは、この洞
窟のクリスマスで知りました。その支えこ
そ、どんなに冷たい冬の夜にもやってくる、
クリスマスは光と命と愛なのです」と記し
ています。ロイバーは絶望の中に身を置い
てもなお、人間として生きる証しとしてそ
のことを家族に必死に伝えたのです。
聖書が記すはじめのクリスマスで最初に
救い主に会ったのは羊飼いたちでした。

羊飼いは当時、ならず者と言われ、神から
見放された者とみなされて暗闇の中にいま
したが、その羊飼いたちに、最初にメシア
誕生の知らせが告げられました。彼らは天
使の告知を聞いて早速ベツレヘムの家畜小
屋に行き、飼い葉桶のメシアに会い、神を
讚美しながら帰って行きました。メシアに
会うまでは神を讚美する気には到底なれな
かったでしょう。しかし、神に愛され、救
われていることを確信した時、讚美が生ま
れたのです。飼い葉桶のメシア（ロイバー
の聖母子も同じ）は、「暗闇」の中の「光」
のしるしです。このしるしを心に持つなら
ば、私たちはそこに神の愛を知り、賛美す
ることができるのです。ロシアのウクライ
ナへの侵攻、イスラエルとハマスの戦闘が
神の愛により終わることを心から祈ります。
クリスマスなので...。

メリー・クリスマス！

『光』 『命』 『愛』

